

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：新葉山はばたき	種別：生活介護	
代表者氏名：萩原 崇至	定員（利用人数）： 40名	
所在地：〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1363-1		
TEL：046-876-1195	ホームページ： <a href="http://www.shounan-nagi.or.jp">http://www.shounan-nagi.or.jp</a>	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2022年10月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人湘南の凧		
職員数	常勤職員： 7名 非常勤職員 9名	
専門職員	サービス管理責任者 1名 事務員 1名	
	生活支援員 13名	
	看護師 1名	
施設・設備の概要	作業室5、会議室1、医務室1 相談スペース1、事務室1	

③理念・基本方針

◇基本理念

1. 利用者が尊厳を持って、自立できる地域社会の実現を目指します。
2. 基本的人権を守り、個人の尊厳を重視した支援を行います。
3. 地域とともに歩み、地域から信頼される法人を目指します。
4. 常に法令を遵守し、良質な福祉サービスを提供します。
5. 法人の経営基盤を強化し、経営の透明性を確保します。

◇職員行動指針

1. 私たちは、社会福祉法人の職員であることを強く自覚し、高い職業倫理を身につけます。
2. 私たちは、常に法令・制度に対する自己研修に励み、これを遵守します。
3. 私たちは、利用者の基本的人権と個人の尊厳を守り、利用者本位の支援に努めます。
4. 私たちは、地域のセーフティネットの一翼を担うものとして、地域社会と連携し、様々な困難に立ち向かいます。
5. 私たちは、「障害者権利条約」推進のため、イエローリボン運動に賛同します。

④施設・事業所の特徴的な取組

○言葉によるコミュニケーションが困難な利用者が約8割おり、職員は写真や文字、カードなどを用いて、利用者の思いを確認している。また、身振りや表情、視線、行動などから思いを探るようにしている。一日の流れを構造化して、利用者が落ち着いて作業や活動に集中できるよう工夫している。自閉症スペクトラムの利用者には、PECS（絵カードを使ったコミュニケーション）を活用して、意思決定の支援を行っている。利用者一人ひとりの障害の特性を把握して、利用者が安心、安全に一日を過ごし、地域社会の中で自立できるよう、職員はていねいに向き合い、利用者支援している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年7月1日（契約日）～ 2024年2月9日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

<p>◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等</p> <p>○これまで、町の指定管理者として生活介護事業所を運営していたが、令和4年10月、事業所を移転し、法人の自主運営としている。企業の保養施設だった建物の内部を改修し、利用定員も40名に増やしている。葉山、逗子、横須賀の3市町から、19～73歳の知的障害や精神障害、自閉症スペクトラム、ダウン症などの障害がある利用者が日中活動に通っている。</p> <p>○生涯発達支援の考えを取り入れ、重点支援領域を①学習・余暇（学ぶ・楽しむ）、②自立生活領域（暮らす）、③作業活動領域、④コミュニケーション領域の4つに分け、利用者の希望や年齢、障害の特性を考慮して、個別に支援領域を設定して、グループごとに活動している。</p> <p>○日中活動は、利用者の心身の状況に合わせ、工程を分割して作業を提供している。ミックスペーパーの回収袋の作成では、折りや糊付けなどの段階に分けて、利用者ができる工程を担ってもらっている。その他、コーヒー袋のシール貼り、ひじきのゴミ取り、機織り（コースターやショール作り）、缶つぶし（資源回収）などの作業を行っている。</p> <p>○余暇活動では、タブレットでアニメを鑑賞したり、パズルやぬり絵、スポーツでは集団で行うレクリエーションとしてボッチャを導入している。日中活動や余暇活動は、本人の希望や家族への聞き取りをもとに、無理のないよう提供している。歩行訓練として届け物を兼ねての歩行、踏台の昇降（階段の上り下り）、動画を見ながらのストレッチ、高いところにボールを入れるなど、一人ひとりの日課を決めている。</p> <p>○利用者の作業室は、必要に応じて、パーテーションを使用して環境設定を行っている。利用者の相性に配慮して活動する部屋を決め、作業や余暇活動に集中できるスペースをパーテーションで区切って確保している。また、利用者がパニックになったり、体調不良になった場合に備え、静養できるスペースを確保している。廊下の幅が広く、4人掛けのソファを置き、利用者がいつでも自由に休んだり談話をしたりできる空間を作っている。</p> <p>○「サービス等利用計画」に基づいて、利用者や家族のニーズに沿った個別支援計画を作成している。利用者の心身の状況や希望する生活を把握して、利用者ができることを増やして、自信につながるよう支援している。職員が言葉で褒めたり、またトークンシステム（代用貨幣）でポイントを増やし、貯まったポイントで散歩に出かけるなど、成功体験を増やして、自律や自立に向けた支援を行っている。</p> <p>○昼食は業者に委託し、事業所内の厨房で調理している。その場で調理しているのので、温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で昼食を提供している。利用者の状態に応じ、食形態（普通食、刻み食、ペースト食など）を選ぶことができる。テーブルの下に踏台を置き、利用者が安定した姿勢で食事が取れるよう工夫している。配膳のトレーには、個別のカードを置き、禁食やアレルギー除去食、代替え食、自助具、箸、スプーンなどの種類を記載し、職員は毎回内容を確認して、食事を提供している。利用者からあがったリクエストメニューは献立に反映している。リクエストメニューは、献立表に☆印を付け、利用者が楽しみにしている。</p> <p>○「利用者支援マニュアル」を整備し、支援にかかわる基本的な姿勢、自立支援などの項目から、食事、排せつ、移動、活動など、支援方法を細かく作成している。新</p>
--

人職員はもとより全職員が「利用者支援マニュアル」に沿って、利用者を支援している。利用者の個別支援計画の作成においても、「個別支援計画手順書」により、統一した手順で計画の原案を作成できるようにしている。また、利用者の特性に合わせ、「アセスメントシート」を複数用意し、「ニーズ整理表」で個人のニーズを抽出している。また、高齢になり身体機能に低下がみられる方には「高齢障害行動チェック」を使用して、個別支援計画の作成につなげている。

◇独自項目への取り組み

○事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムを確認する「発展的評価項目」に取り組んでいる。「新人職員の育成環境を整え、利用者支援の質や業務の効率の向上を図る」ことをテーマに、取り組みの過程をPDCA（計画、実施、反省、課題の検証）に分け、実践を振り返っている。また、事業所が次の取り組みを計画する「課題抽出項目」では、「利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている」の項目に対して、今後の具体的な取り組み内容を決めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、第三者評価を受審するにあたり施設長以下、10年目以上のリーダー層の職員及び4～9年目の中堅職員を中心に自己評価票の点検を行いました。自己点検を進める中で各職員が事業運営全般の理解や利用者支援を客観的に振り返る機会になりました。また訪問調査を通じて、日々の業務を言語化することやエビデンス（根拠）を明確化する機会になりました。引き続き利用者の方の障がい特性や多様化するニーズに対応すべく、利用者本位の支援に努めてまいります。

発展的評価項目では、今後、多様化する福祉ニーズに対応するため新人職員の育成ならびに職場定着を目的とした職場内OJT（OJT計画の立案と育成担当職員による助言・指導）をテーマに職員間で課題の抽出や具体的な改善事項について検討を重ねた結果、「OJT計画で定められた各目標を期間内に達成する」ことを目標に取り組みを行いました。取り組みを進める中で不足する項目もあり、修正を要したが、計画の中に育成に関する進捗を職員全体に示したことで育成担当職員が不在時は、他職員が代替で育成担当を担うといったメリットも確認されました。適宜、取り組みについては改善を要しているが事業所内で人材育成に対するOJTを行えたことで貴重な福祉人材の職場定着及び職員の育成を通じて利用者の福祉ニーズのより一層の充足に繋がればと考えております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり